

## 交換留学（派遣）帰国報告書

.....

留学先大学：パリ第二大学

留学先での所属学部・研究科：法律コース

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2015年9月～2016年7月

神戸大学での所属学部・研究科：法学研究科

学年（出発時）：D2

本報告書記入日：2016年6月10日

### 1. 留学先大学について

#### 1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日：9月27日

学年終了月日：6月30日

学期：

①9月27日～1月31日

②2月1日～6月30日

③月 日～月 日

④月 日～月 日

#### 1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

パリ第二大学は、法学の分野では中世以来の伝統の蓄積のある大学である。また、近年も、民法（債権法）改正や、EU法、EU内での私法の調和などの広い分野で第一人者である研究者が在籍し、講義を受けることができる。

#### 1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：

フランス語の授業（任意）が提供されている。

勉学面でのサポート：

9月末にフランス人学生も履修する本格的な講義が始まるに先立って、留学生を対象にフランス法の概論や方法論についての導入講義が提供された。

精神面でのサポート：

特になし。

住居・生活面でのサポート：

とくになし

課外活動のサポート：

自分は課外活動に参加しなかったので不明。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい

いいえ

## 2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気をつけること等)

パリの住居を見つけるのは大変苦労した。知り合いのつてを片端から頼った。結局、国際大学都市 (Cité universitaire) の日本館館長に今の住居を紹介していただいたが、あまり良い条件の住居とはいえなかった。

## 3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

海外留学保険に加入した。

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

26歳以下で、学生として留学する場合は、フランスの社会保険 (Sécurité social) に加入することが義務付けられている。社会保険を補完する相互保険 (mutuel) は任意である。

3-2. PC (パソコン) について

PCの保有の状況： 日本から持参した  現地で購入した  保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否： 接続できた  接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

ネット代金は家賃に含まれていたので不明である。

大学でのPCの使用の可否： 使用できた  使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

図書館にあるが、学生数に比して台数は限られており、昼間に空いているものを見つけるのは難しい。自分は利用しなかったが、図書館でipadを借りることができるようである。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

病院には一度もいかなかった。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

水道水を飲まない等の初步的な事項以外は特に注意しなかった。フランスでは、医薬品やサプリメントも豊富で、安価なものが多いので、気軽に利用した。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

ネットバンキングを使えるようにした。また、国際キャッシュカードを数種類用意した。（しかし、普段の買い物は、基本的にはクレジットカードで決済するようにした）。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

日本と異なって、「人の目を気にする」ということがなく、よくも悪くも放っておられる、あるいは放つておいてもらえることが多いと感じた。また、見知らぬ人でも、電車ですれ違ったり、お店のレジを待っている間などで、ふとしたきっかけでおしゃべりが始まる（話しかけられる）こともよくある。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

同じ国際大学都市に住んでいる留学生同士（国籍多様）と遊びにいくこともよくある。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

とくにしなかった。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

パリは国際都市なので、外国人であっても気にされない。最近は、外国人の外見をしているせいで、英語で話しかけられることも多くなった。11月のテロの影響も残っているが、ふつうに生活している分には特に危険を感じることはない。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

就職活動はしなかった。

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) JASSO \_\_\_\_\_, 10万 円／月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

特がない。必要な時にその都度Googleで検索した。ストライキの際にはSNCFのサイトやツイッターなどで電車の運行状況を確認した。

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

Wifiルーター、変換プラグ（CまたはSE）。普段使用しているペンの替え芯。

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：( ) 点 → 帰国後 ( ) 点

フランス語力はかなり向上したと思う。また、派遣先大学の先生に積極的に質問したり、話したりして、今後の研究方針を明確化させることができたとおもう。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

特に大きなトラブルには遭わなかったが、授業を理解するうえで、フランス語力の不足を痛感した。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

結果的にはうまくいったものの、パリでの住居探しは大変苦労したので、大学としてもサポートが必要だと思う。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

薦める。

パリ第二大学の授業は、パリ大学のなかでも厳しい部類に入るので、事前に十分なフランス語の能力を養っておく必要があると思う。ただ、何とかなるものである。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 3
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 4
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 3
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 2
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 3
- ・留学全体の総合的な評価： 4

**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	国際私法1	Mme Fauvarque-Cosson	3h + TD 1.5h	9 (TD 込)	200	フランス人学生と仲良くなり、ノートをもらう
2	民法1（債権 法1）	M. Levener	3h + TD 1.5h	9 (同 上)	300	同上
3	EU法1	M. Pfister	3h	4	300	同上
4	国際取引法	M. Cohen	3 h	4	200	同上
5	国際私法2	Mme Gore	3 h	4	200	同上
6	民法2	M. Gautier	3 h	4	250	同上
7	Grand système de droit contemporain 2	Mme Fauvarque-Cosson	3 h	4	100	同上
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

講義は、どれも100人以上の学生数がいる。教授はかなり早口で話し、学生はそれをPCかノートで、必死になって一字一句正確に書き取るのが、こちらの一般的な授業風景である。レジュメの配布や板書は全くないので、特に判例や特別法で知らないものが出てくると、聴き取るのは難しい。TDは、ゼミのようなものであるが、1回のTDで前半は課題（事例問題や判例・条文の評釈）の説明、後半は8~10個の判例の全部または一部の説明であり、事前の予習が不可欠である。小テストや夜の3時間におよぶ模擬試験もTDの点数に含まれる（交換留学生はTDの点数は成績にカウントされない。例外あり）。フランス人学生は、講義を5つ、TDを2、3つとっているので、毎日とても忙しそうである。

**費用について**

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃 : 11万円
- ・住居費 : (月額) 約4万円 × (留学月数) 11 ヶ月 = 44万円
- ・食費 : (月額) 約8万円 × (留学月数) 11 ヶ月 = 88万円
- ・保険料 : 15万円
- ・その他 : 書籍費（約6万円）、引越し費用（約5万円）、諸活動費・交際費約20万円
- 合計 : 約200万円 (留学期間全体の費用)

**その他　自由に記入してください。(800字~)**

2015-16年度のパリは、例年に比べて、いろいろな事件が多かったように思う。

11月13日（金）の夜には、2015年1月に続いて、パリで二度目のテロ事件が起こった。1月のテロ事件を受けて政府が警戒態勢に乗り出した矢先の出来事で、一般市民を含む多数の被害者を出したテロ事件が起きたことは、パリ市民、フランス国民にとってどれほどの衝撃であったか計り知れない。事件から一夜明けた週末は、さすがに市内で緊迫した空気が支配し、人出も少なかった。

テロ事件を受けて緊急事態宣言が出され、それは現在も延長されながら続いている。それを受け、いくつかのイベントは中止になってしまった。新年のシャンゼリゼ通りのカウントダウンで、例年なら華々しく夜空を飾るはず花火も取りやめになったのは残念だった。大学や店舗、国際大学都市の入口では警備員が来訪者の荷物をチェックしている（実効性が疑われるくらい形式的なものだが）ので、入口付近はかなり混雑する。

とはいっても、事件の翌日の土曜日も、パン屋やスーパーなどのお店は開いていたし、人々の対応は冷静であった。いくつかの授業は休講になったものの、ほとんどの講義は、週明けから予定通り行われた。日常が取り戻されるのは意外にも早かったように思う。テロに屈することなく、人々は自分のやるべき仕事や勉強を肅々とこなし、余暇を楽しむ権利を放棄することはなかった。あの時期にたくさんの人の口から繰り返された『La vie continue.』（人生は続く）という言葉は、パリに越してから日が浅く、傍観者にしかなりえない私には想像もできないほど重いものだったと思う。

フランスといえば「ストライキ」といっても違和感がないくらい、フランスはストライキが多い。今年度は、連日メディアを賑わす労働法改正の影響で、特に年が明けてからはストライキやデモの影響が大きかったと思う。3月には、学生によるデモの影響で、大学でも一部の授業は休講になった。私が受講していた授業は幸いにも（？）休講にはならなかつたが、その講義の教授が皮肉めいたことを授業中に口にしていた。5月から6月にかけては大規模なストライキが発生し、電車の本数が著しく減少した。街を歩いていても、労働法改正に反対するビラやポスターをよく見かけるし、バス停でバスを待っていると、女のひとに急に話しかけられ、私が法律を専攻している学生と知ると、労働法改正について（学生に批判的な）意見をまくしたてられたこともあった。フランス人にとって、この件は、Euro 2016に並ぶ、今年初夏の最大の関心事なのだろう。

春先からの雨量が例年よりも多かったようで、6月初旬にはセーヌ川が増水し、過去30年で最も水位が上がった。ルーブル美術館の閉館などは実生活には特に影響はないが、地下鉄の駅のいくつかが閉鎖され、折からのストライキと相まって、交通機関がかなり混乱したことは影響を受けた。

フランスの大学は、日本の大学と異なり、いろいろと制度が違うし、授業の形態にも慣れないことも多かったが、パリの街には気分転換になるものが多く、精神的には苦にはならなかった。19世紀、ナポレオンIII世治世下の大改造（Haussmannisation）によって手に入れた美しい街並みが今でも残るパリにおいて、パリ第二大学はそのほぼ中心部（5区と6区）に所在する。授業の帰りに、リュクサンブル公園を散歩して、太陽の光の下で昼食のバゲットサンドや近くの店で買ったジェラートをほおばりながら、高校生がサッカーボールで遊んでいたり、老若さまざまなカップルが語らっているのを見めるのもいい。セーヌ川沿いの古本屋で、古い新聞や官報を物色するのもいい。夕食の後でシャイヨー宮まで出かけて、金色にライトアップされたエッフェル塔を眺めながら物思いにふけるのもいい。たまにはコンサートホールに出向いて、日本では考えられない値段で、本場の音楽に耳を傾けるのもいい。とにかく何をしていてもなんとなく楽しい気分になれる、それがパリの魅力である。